

協 同

[特集] 持続可能な農業の実現にむけて
「もうかる営農プラン」「地域農業元気プラン」の12年間の取り組み成果

2022
June
KYODO 6



兵庫の農業人
Hyogo-nougyoujin

タッグ! 兵庫の農業人

昭和20年代から続く岩岡キャベツを
たくさんの人に届けます!

FARMER × JA STAFF
木下 真規さん
荒木 辰哉さん
詳細は
裏表紙へ

兵庫の農業人

生産者の皆さんとタッグを組んだ
多様な営農活動を紹介します。

タッグの様子は動画でも配信中! ▶

▶ YouTube で 兵庫の農業・農協発信ch 検索



今月は **JA兵庫六甲**

昭和20年代から続く岩岡キャベツを たくさんの人に届けます!

キャベツの生育状況について話す木下さん(左)と荒木さん



生産者

キャベツ農家

木下 真規さん

他の農家さんにキャベツ栽培
をアピールして、仲間を増や
していきたいです!歴史のある岩
岡のキャベツをこれからも生産
し、鮮度の高いキャベツをた
くさんの人にお届けします!



JA職員

JA兵庫六甲
三田営農総合センターリーダー※
荒木 辰哉さん

営農経済事業に携わる職員と
して、農業生産の拡大と農家所
得の増大に力を入れていきま
す!JA兵庫六甲の特産品で
地域農業を盛り上げられるよ
う頑張ります!

※昨年度まで、神戸西営農総合センター所属

神戸市の最西端に位置する岩岡地区は、約 70 年前から続くキャベツ栽培が盛んだ。県内でも有数の生産量を誇り、国の野菜指定産地に指定されている。

JA兵庫六甲は、令和3年度から同地区のこうべ旬菜キャベツ部会とJA全農兵庫、土木建築請負会社である株式会社創新とのパートナーシップにより、収穫支援の取り組みを行っている。同JA神戸西営農総合センターで担当していた荒木辰哉さんは、農業者の高齢化だけでなく、収穫作業が重労働であるためにキャベツ部会全体の作付面積・生産量が今後減少していくと考え、収穫作業の負担を軽減するための労働力支援の仕組みを構築した。この労働力支援はキャベツの刈り取り、箱詰め、運搬作業を創新に委託することで作業負担を軽減し、キャベツの作付け拡大を図るものである。

同地区の木下真規さんは9年前に就農し、現在では若手代表としてキャベツ部会を引っ張る存在である。木下さんが作付拡大に向けて課題だと感じたのは、収穫作業の負担の大きさだった。令和3年度から、創新の人員

による労働力支援を毎日6人以上受けることで、10aあたりの収穫作業時間を24時間削減。分業化・省力化が可能になったことで、28aの作付け拡大を実現できた。

キャベツの収穫作業を委託することについて、木下さんは「事前に研修を受けてもらっていたため初日から安心して任せることができた。また適期に収穫することができ、新鮮な状態で出荷することができて嬉しい」と話す。

JA兵庫六甲では農業者の高齢化が進む中、農業生産の拡大と農家所得の向上に向け、組合員農家が生産に集中できる分業化・省力化システムの強化に取り組む。

キャベツの収穫支援による生産拡大

JA兵庫六甲はJA全農兵庫と(株)創新との
パートナーシップによる労働力支援を行い、
キャベツの生産量の拡大と農家所得の向上に取り組む。

木下さんを含む
生産者3人の取り組み面積

令和
2年度 840a ▶ 令和
3年度 **910a**